

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市東長町児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
3	指定期間	平成29年4月1日から平成34年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 33,848人（前年度比 121.3%） 平成28年度 27,899人 平成27年度 26,432人 平成26年度 22,307人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 33,796千円（22,516千円） ・ その他市が負担した費用 0千円（0千円） （ ）は前年度決算額
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円（0千円） ・ その他収入 0千円（0千円）
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、地域懇談会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	児童館の設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。また、地域特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	S
II	施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な運営管理体制が構築されている。また、施設内外の日常点検及び定期点検、マニュアル等の整備、毎月の避難訓練の実施等、安全に留意した運営に取り組んでいる。	S
III	施設・設備の維持管理	日常的・定期的な保守点検や清掃により、建物、設備、外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みが実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	S
IV	サービスの質の向上	名札の着用、館内掲示による職員紹介、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに取り組んでいる。また、各種研修への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等を通して利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。職員は、利用者に対する気持ちのよい挨拶や丁寧な対応を心がけている。	S
V	施設固有の基準	児童クラブにおいては、児童クラブ通信の発行や保護者交流会、迎えの際のやりとり等を通して子どもたちの遊びや生活の様子を伝え、保護者との丁寧な情報共有を行っている。小学校おやじの会の協力により館内でのお泊り会を実施するほか、3・4年生がリーダーとなって生活のルールについて話し合う等、子どもたちの主体性を育みながら遊びの充実を図っている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》
<p>今年度はサテライトが開設となり、小学校の協力をいただきながら、今まで以上に子どもたちの安全安心な居場所づくりを心掛けました。サテライトと本館の差別化をなくすよう環境整備を行い、楽しく過ごせる場所づくりを行いました。また、子どもたちが地域の一員であるという自覚が持てるよう、近隣施設の祭りで、子どもたちが得意にしていることを披露する場を設けていただいたり、児童館の活動に地域の方が共に参加して多世代交流に繋げる等、積極的に地域の活動に参加しました。地域懇談会にて、情報交換をするとともに、児童館に足を運んでいただき子どもたちと関わってほしい旨を話し、地域みんなで、子どもたちが心豊かになれるよう育んでいこうという事で一致しました。</p> <p>東長町小学校区は、転入出の多い学区です。初めて宮城県に住むという世帯も多くいます。それを受け、今年度の児童館の活動は“宮城を知る”ことを柱にした活動を実施しました。児童館まつりは宮城県のゆるきゃらを手配し、パンフレットを配布しながら視覚から知る、食材王国みやぎ伝え人に応募し、名産の笹かまぼこについて学習、その後作って食べるという食を通じて知る、また、青葉まつりすずめっこ1000人祭連へ参加してすずめ踊りを踊る、るるブルコンサートを開催し楽しく知ると、様々な体験を通じて宮城県に触れることができました。これらのイベントを通じて東長町小学校区が子どもたちにとって故郷となれたかと思えます。</p> <p>今後も「子どもたちをまんやかに 地域みんながふれあう あったか交流広場」を合言葉に、地域に必要とされる児童館を目指して行きたいと思えます。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>転入が多いという地域性であることから、「宮城を知る」ことをねらいとし、笹かまぼこ作りや青葉祭りすずめっこ1000人祭連に参加するなどの活動に初めて取り組んでいる。また、登米地区での都市農村交流を3回実施し、普段はなかなか体験できない森の探検や沢遊びなど、社会体験や自然体験の場を多く設ける活動にも取り組んでいる。</p> <p>近隣児童館3館が集まるドッジボール大会やミニ運動会などの合同行事、保育所を訪問してのお店ごっこ、グループホーム夏祭りへの参加、フリースクールの中高生との交流等、多様な世代との幅の広い交流の機会を設けている。</p> <p>また、地域における「人」を地域資源と考え、「地域先生」として短歌、茶道、習字、フラワーアレンジメント等の指導を依頼し、地域住民と子どもたちが触れ合う機会をを通して、子どもも地域の一員であるという心を育てており、評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室